

## 60年度中部支部総会開催

昭和60年度構造家懇談会中部支部総会が開催されました。

日時 昭和60年5月11(土) 14:00~15:00

場所 弥生会館

出席者 正会員 26名

司会 奥井 徹 氏

議長 後藤 清長 氏

議事 昭和59年度事業及び決算報告、役員選出、

昭和60年度活動方針及び予算案承認、規約一部改訂、顧問推薦の順に原案通り可決されました。新役員に渡辺支部長、辻井・森田両副支部長、本郷支部会計と大塚、長谷川、平田各理事及び会計監査に木坂氏が選出されました。規約の改訂では、総会の構

成開催に委任状を議決権を有する出席者とした。最後に支部発足当初からの前支部長北内氏を顧問とする議決を行い、総会を終えました。

総会に続き同所に於て「関東大地震(名古屋市港防災センター提供)」の映画会、愛知工業大学飯田滋事教授による「地震動の性状」について講演が行われました。

講演会終了後17:30頃同会館別室にて、奥井氏の司会にて懇親会が開かれました。前年度の技術委員会で作製された「柱ての設計、施工」(建築技術社)の連載中とあって、当時の苦勞話し等に、話しがはずみ有意義な時を過ごしました。



### 支部長をお引き受けして

支部長 渡辺 誠 一

会員の皆様方にはますますご清栄のことと存じます。この度、支部長という大役を若輩の小生がお受けつかり、いささかとまどっている次第ではありますが、皆様方のご支援を賜りつゝその職責を全ういたし度く、努力致す所存でございます。

さて構造家懇談会も五年目を迎えました。中部支部も昭和56年11月5日に発足以来順調に発展して参りました。これも北内前支部長のご尽力と共に会員各位のご努力の賜と敬意を表する次第であります。おかげ様で当会はいまだ発足して日の浅い団体ではありますが行政ご当局はじめ各方面から、ご支援とご鞭撻を戴いております。ご承知のように中部支部は静岡から富山に至る中部七県下の会員により構成されており、現在正会員78名でございますが、何分エリアが広く遠方の会員の方々には何かとご不便をかけていると思ひます。

構造懇は十分な実務経験をもつ実務家の専門的職能集団というべきもので、会の目的は云うまでもなく、会員相互の親睦、情報の交換、構造家としての研鑽と社会への貢献でありますから、会員の皆様方の事業への積極的ご参加が切望されるわけあります。

当支部も、本年度の支部総会でご挨拶致しましたように、皆様方への情報サービス等を更に計るために広報委員会を設置致しました。よって委員会は技術委員会、事業委員会、広報委員会の三つとなります。各委員会の委員長も決りましたので、本年度の活動にご尽力をお願い致しております。又遠方の会員に対しまして、相互のコミュニケーションということでの出張懇談会や事業にご参加戴くための何がしかのご奨助等も検討致し度いと思っております。

又、学会会員の先生方には旧に倍してご指導賜り度く、本年は五周年という節目の記念研究会や講演会等、よろしく願い申し上げます。

一方、当支部内のことのみならず、私共の建築界を見わたすとき、各種の先輩の団体があります。私共はその一つや二つの団体には重ねて所属しているところですが、その方面への協力ということも大切なことであります。

それぞれの団体の目的とするところに、互敬の精神をもって、おつき合いできればと思う次第であります。会員の皆様方の尚一そうのご理解とご支援をお願い致し度いと思ひます。

## ちょっと思ったこと

前支部長 北内 博雄

支部の会報が発行されることになったと聞いて誠に嬉しい限りである。昨年当りからこの話が持ち上っていたのだが、いよいよ実行されるについて、担当の会員の方は大変御苦労様であると思ふけれども何分宜しくと御願ひ申し上げたい。

支部会員のコミュニケーションは各種会合の時に顔を合はせることしかなかったのだが、これからは会誌の上で忌憚のない意見を交換し合って意志の交流を計れるところに大いに意味がある。

一方では新執行部は静岡に赴いて会員と懇談されたさうだし、近々北陸へも足を延ばして遠隔地の会員と交流する予定とも聞いているが、今迄やゝもすれば中心集中的であったのが横への拡がりもどんどん出来て行き、私がやりたいと思っながらスローモードで実行しなかった事を新執行部で早速実施に移して行くその実行力に大いに敬意を差上げたい。

ところで私は建前論とかフィロソフィーを語るのは最も不得意な方で、口を開くと直ちに本音を吐いてしまふので損をしているかも知れないが、最近思っていることを臆面なく書いてみたい。もし差障りのある面があったら遠慮なく御指弾下さい。

世の中には床屋さんでもお風呂屋さんでも協定料金といふものがあるが誰も文句いふことなく払っている。同じ技術職でもお医者さんは営利を目的としない報酬といふことでお上がちゃんと点数だとか単価だとかを定めて患者も値引きしろとも何とも云はないで診療代、薬代をお払ひ申し上げている。

ところが同じ営利を目的としない報酬であっても建築の設計者が協定報酬率などを設けようとすると、独禁法違反などと云ってお咎めを受ける。この所が素人の私にはよくわからないのだ。特に構造設計專業者には設計料率などといふものは全く無い。単に注文する側とされる側の力関係でまわってしまひ、設計原価や内容などはお構ひないのが通常である。勿論注文される側が押されるのは当たり前だ。

この当りから少し差障りのある言葉となるかも知れないが、同じ構造設計者といってもその所属する職域に依って大変な差が出て来る。例へば建設業に所属する方はその会社の全社員の数から見ればほんの a few of の人数だ。構造設計の量が増えようと減らそうとその会社からすれば殆ど問題にするに足りない。総合設計事務所では構造マンの比率は全所員数の10%かそれ以下であろう。勿論設計を業とするのだから構造設計量が減るのは業績に影響する訳だが全体としてはまだカバーする余地があるだらう。所が一番惨めなのは構造專業事務所である。構造設計が全てなのだから設計量の低下は即生活に連動する。構造設計事務所と看板を掲げているからには一応の体裁は整へなければならない。よく心ない設計事務所から一匹狼の構造屋さん、確認申請さへ通ればよいから安い設計料でやれと押しつけられるといふ話を聞くが、その安い設計料がまるで通り相場の様なことになって来ているように思へてならない。到底一匹狼の方々には專業事務所は値段の上で太刀打出来ない。勿論全部が全部さうだと云ふのでなくて、よく認めていただける場合もあるのだが。



ボヤいていてばかりでも始まらない。一体どうしたらいいのだ。現今はトータルの量が減ってしまつて、綜合事務所の設計料も下がっているらしいから構造設計料も安くなつてしまふのだ。医者も建築設計者も同じ技術屋である。技術者であるからそれなりの社会的地位を認められたいのだ。さうしてこれだけの技術的労力に対して内容をよく見て正当な報酬は頂戴しますよ、と云へるようになりたいのだ。構造設計をしている人にもランタがあつていゝ。そして構造士とでも謂ふ資格制度と、正当な報酬基準といふものを確立して世間もそれを認める様になって欲しい。我々の側にも充分戒心すべき点があるのは当然だが。

## 講習会のお知らせ

### “震害から学ぶ耐震設計の問題点”

日 時 昭和60年9月24日(火)

主 催 日本建築学会東海支部構造委員会

後 援 構造家懇談会中部支部他

詳細については別紙をお読み下さい。

## パネルディスカッションへのお誘い

### 主題「コンクリートの現状と問題点」

— コンクリート材料を中心として —

最近コンクリートにはひび割れ・塩害・アルカリ骨材反応等多くの問題が発生しています。生コン・骨材・セメント・施工業者および学者の方々をお招きして、コンクリートを構成する材料を中心にして問題提起をしていただきます。

日 時 10月中旬

## 事業委員会の活動

森田 富士男

本年、新支部長のもとに組織替えがあり、小生、事業委員長を命ぜられました。

過去4年間、構造家懇談会のいろいろな会合に出席させていただき、各分野で御活躍の会員皆様のお話を聞かせていただきました。



私は、会員各位の御活躍の分野による、いろいろの認識の違いがあるように思いました。多方面に活躍の出来る環境におられる方、一方、ある方向しか活躍分野のない方、様々です。

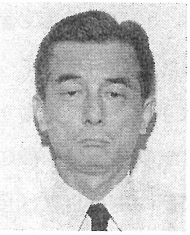
建築構造技術は言うに及ばず、職能に対する社会的理解を高めるためにも、当構造家懇談会を利用し、各種の交流を深めていただくことが、会を盛り上げる事になると思います。特に、限られた活躍分野の方は、積極的に参加し、利用して頂くようお願いいたします。

今年は、構造家懇談会中部支部発足5周年になります。秋には、記念行事として、会員の皆様と、会員以外の方と共に建築の幅広いお話を聞く会を、持ちたいと思っています。話題、お話をさせていただきたい建築家、構造家等についての意見を、お待ちしております。又、昨今のコンクリート関連の話題として、コンクリート材の耐久性等についてのパネルディスカッションを、計画していますが、話題の焦点が絞りにくいので、皆様のお持ちの課題、疑問点など、お聞かせください。各会合には、多数の皆様の参加をお願いいたします。

## 技術委員会の活動

辻井 剛

我々の祖先が狩猟を生活の拠りどころとしていた頃、熊や狼などの猛獣に遭遇して、それこそ死に物狂いで逃げ廻ったことが何度もあったであろう。それはまさに生死を賭けた全力疾走であったに違いない。



我々が子供の頃、今とは違って遊び道具も満足にないまゝ外で飛び廻ることが多かった。鬼ごっこや缶けりなどでは、つかまるまい、見つかるまいとして、子供心にも必死で走っては物かげに隠れたりしたことを憶えている。これも言わば全力疾走であった。

現代の生活において、我々は全力疾走することがあるだろうか。まず、ない。言葉の意味を広げて、何事かをやりとげるのに全力を投入することがあるだろうか。それに近いことはあっても、全身全霊をもって事に当たるという例は極く少ないのではないか。

## 構造家懇談会中部支部 昭和60年度事業計画案

- |     |       |  |
|-----|-------|--|
| 7月  | 見学会   | 学校法人 東海産業短期大学教室研究棟<br>6階建(3節組のもの)スパン12m<br>プレストレストコンクリート造<br>7/20(土) p.m. 建方、緊張の見学 |
| 10月 | P. D. | コンクリート関連の話題<br>(例、耐久性と施工と設計)   |
| 11月 | 講演会   | 5周年記念講演会(建築家と構造家の講演)、懇親会   |
| 1月  | 会合    | 新年互礼会、映画会  |
| 2月  | 見学会   | (案)市体育館 100mスペースストラ<br>S造  |
| 5月  | 会合    | 支部総会、技術委員会報告、映画会、<br>懇親会   |

## 事業委員会メンバー

- |     |        |                |
|-----|--------|----------------|
| 委員長 | 森田 富士男 | ( 尙森田設計室 )     |
| 幹事  | 長谷川 勇  | ( ㈱大林組 )       |
| 委員  | 天木 康雄  | ( 鹿島建設㈱ )      |
|     | 井本 明男  | ( 井本建築設計事務所 )  |
|     | 豊島 祐昌  | ( ㈱日建設計 )      |
|     | 松久 哲雄  | ( ㈱日本総合建築事務所 ) |

身の廻りには余りにも多くの情報が流れている。それに伴って解決せねばならない事柄もふえていく。あれも、これもでは全力投球など出来るわけがない。所詮、問題の整理と24時間の割り振りであろう。

構造設計については、新耐震以後の情報量は凄じい。事が専門化し、その先端部分では微に入り細をうがう現象も多くなる。勿論、全て無視し得ない事柄ではあるが、常に全体像を捉えることを念頭に置きたい。

技術委員会が、出来るだけ大勢の会員の参加のもとで情報を収集・交換し、それぞれの体験を語り合うことによって互いに新しいものを吸収し、又我々の主張を世に問うための拠り所にしたり、といった役に立つ場となるよう考えている次第である。

冒頭に全力疾走などと出来もしないことを言ってしまったが、それは兎も角、亀の歩みでよいから地道な積み重ねが出来よう皆さんと一緒に汗を流しましょう。



## 広報委員会の活動

平田 肇

今年度より当中部支部に広報委員会が設置されることになりました。この委員会は支部会員内および外部に対する広報活動することになります。委員会としては初年度であること、その他を考え、対外的広報活動はしばらくおくこととし、支部内活動を主体にしたいと考えております。その活動の主要任務のひとつとして広報誌を発行することとなりました。頁数は4頁程度と少なくともありますが支部活動のひとつの役割を果たしていきたいと考えます。



今後の予定としましては年4回発行を目標とし、次のような内容を考えております。①会員の声 ②事業の予定およびその結果等の報告 ③会員の紹介および消息 ④委員会だよりおよび事務局だよりによる支部の動き ⑤技術委員の協力のもとに仕事上に関するQ & A ⑥座談会の開催および誌上再録等であります。よりよい誌面にするため会員の皆様のご意見・ご希望そして特に投稿をお待ちしております。ご連絡下さい。

以前お願いしておりました委員の推薦もございませんでしたので当初予定しておりました下記委員にて活動を開始しております。

なお予定しております会員の紹介記事につきましては広報委員で会員の皆様に訪問して、お話しを伺いたいと思っております。

委員長	平田 肇	安井建築設計事務所	961-1861
幹事	木坂 洋司	日本設計事務所	211-3651
委員	勝股 浩二	青島設計	262-2341
	鈴木 勉	石本建築事務所	263-1821
	西垣 要治	大成建設	561-7211

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆  
☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆  
☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆  
☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆  
☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆  
☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

中部支部発足後3年9ヶ月、ようやく支部広報誌のうぶ声があがりました。この赤ちゃんは、みなさんの子です。赤ちゃんの名前を会員の方から広く募集して居ります。素適な名前をつけて下さい。

応募先 広報委員長 平田 肇〔安井建築設計事務所〕  
(961)-1861

〒460 名古屋市中区錦3-24-17 日本生命ビル  
決定方法 広報委員会で推選、理事会にて決定させていただきます。

又、広報誌は、会員の広場です。投稿、情報交換等何んでも結構ですから、御意見をお寄せ下さい。委員全員首をながくしてまっまーす!

## 支部理事会

- №1 (4/4、伊藤理事を除く全員出席)
  - 支部総会提出議案の審議
  - 講演の詳細決定(地震動の性状、飯田汲事先生)
- №2 (5/8、伊藤理事を除く全員出席)
  - 会理事会報告
- №3 (5/27、全員出席)
  - 会総会報告
  - 支部各委員会の委員等について審議
  - 静岡、富山へ会員との懇談に行く(支部長、副支部長)
- №4 (6/28、全員出席)
  - 静岡の会員との懇談会報告
  - 支部各委員会の活動報告と活動方針の審議
  - 特定行政庁(愛知県、名古屋市)との懇談会  
8/8に開催予定。会員より意見聴取を行う。

## 事務局からのお願い

- 事務局の所在は、向う2年間従来通りの場所と決定。
- 会員の異動、住所等の異動は支部事務局へも連絡下さい。
- 会への入会の場合、入会申込書又はその控えを支部事務局へ送付して下さい。
- 昭和60年4月1日現在の支部会員名簿を同封しますので、間違いがあれば支部事務局へ連絡下さい。

## 会員の勧誘を!!

本会では会員の拡大をめざしています。会員の皆様の近くの方を正会員又は準会員に推薦して下さい。



発行 構造家懇談会中部支部事務局

TEL 052-261-6131